

テーマは「水稻の収穫量（令和7年産）」

東北6県の収穫量は全国の約3割

東北6県合計の令和7年産水稻の収穫量（主食用（生産者が使用しているふるい目幅ベース）注。以下、「生産者ふるい目幅ベース」と言います。）は201万2,000tで、全国合計の収穫量の28%を占めています（図1）。注：1.85mm（福島県）、1.90mm（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県）ベースのふるい上米

これを県別にみると、秋田県、福島県、宮城県が、全国ランキングの3位から5位を占めるほか、山形県が7位、青森県が10位、岩手県も11位といずれの県も上位に位置しています（表）。

図1 水稻収穫量の農業地域別割合
(令和7年産・生産者ふるい目ベース)

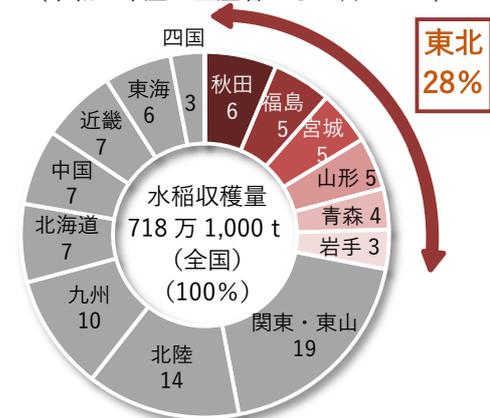


表 水稻収穫量の上位都道府県
(令和7年産・生産者ふるい目ベース)

順位	都道府県	順位	収穫量
1	新潟	→	570,200
2	北海道	→	496,300
3	秋田	→	453,900
4	福島	5↑	371,200
5	宮城	4↓	342,800
6	茨城	7↑	338,800
7	山形	6↓	334,000
8	栃木	9↑	302,700
9	千葉	8↓	289,900
10	青森	→	260,500
11	岩手	→	250,000
12	長野	13↑	183,600
13	富山	12↓	172,500

注1) 沖縄県は0%。
注2) 構成割合は、単位未満をラウンドしているため、合計が100にならない場合がある（以下同じ。）。

Vol.32 [令和7年12月]

「まふナビ東北」では、各種政府統計調査結果や行政データ等を活用して分析した東北農業の実態に関する分析データをお届けします。

農林水産省

本分析は、令和7年産水陸稲の収穫量(全国)(令和7年12月12日公表)及び令和7年産水稻市町村別統計(東北)(12月19日公表)の調査結果データを基に作成しています。

東北6県は作付面積規模、収量水準ともに全国トップクラス

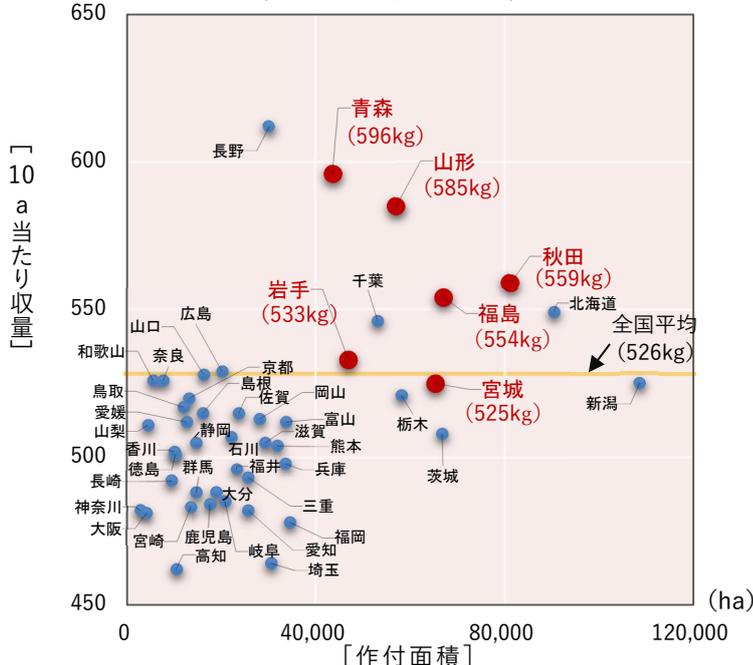
東北6県は、作付面積（主食用）がいずれも4万haを超え前年に比べ約1～2割増加しています。

10a当たり収量（生産者ふるい目幅ベース）をみると、青森県が596kgで全国2位、山形県が585kgで3位、次いで秋田県、福島県が続き、いずれも全国5位以内にランクインしています（図2）。

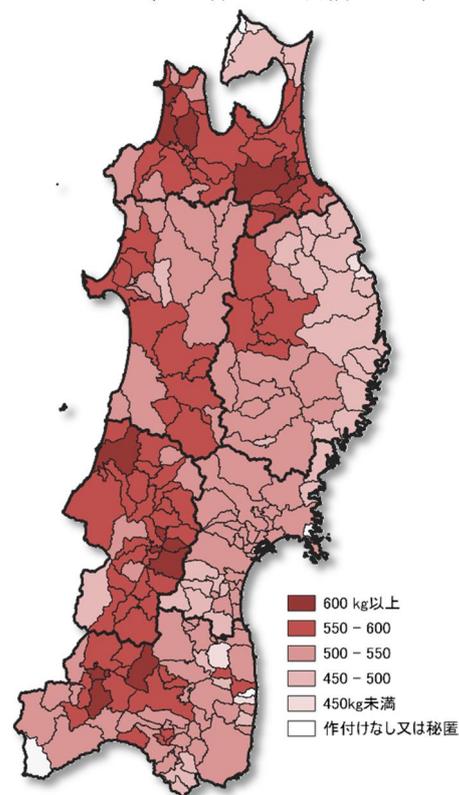
また、青森県西北地域・三八上北地域、山形県の村山地域・庄内地域、福島県の会津地域に属する市町村で収量水準が高くなっています（図3）。

図3 水稻の10a当たり収量階層分布
(令和7年産、東北、市町村別)
(生産者ふるい目幅ベース)

図2 水稻の作付面積と10a当たり収量の分布
(令和7年産、都道府県)



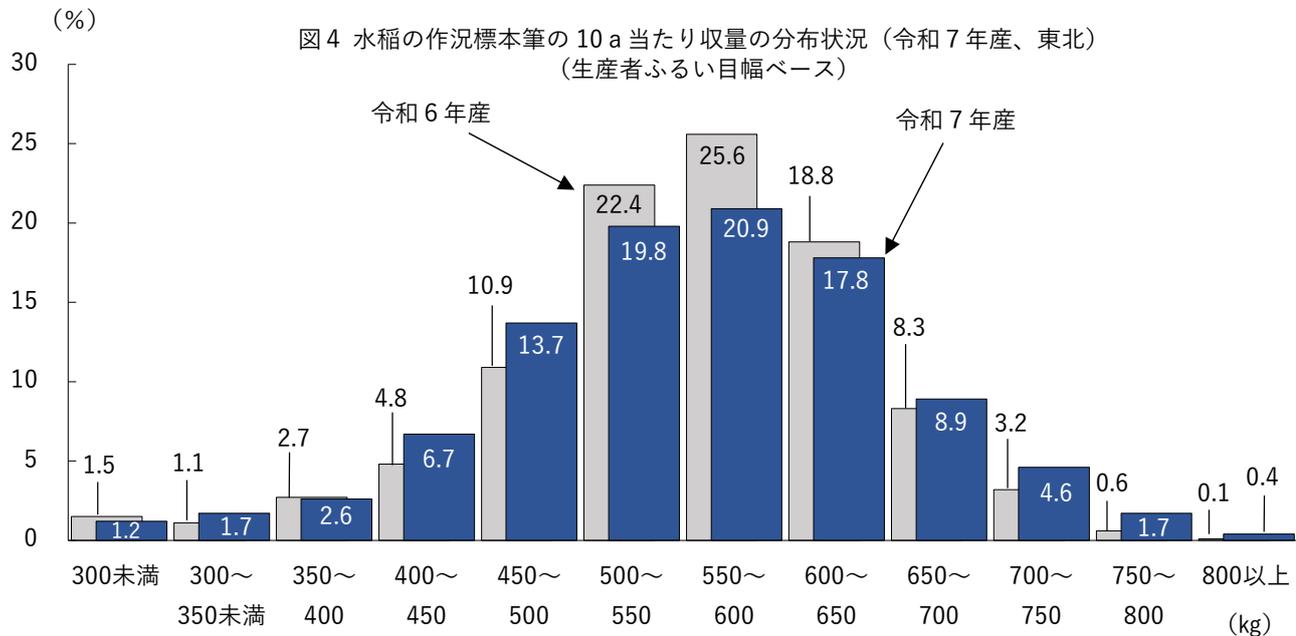
注：作付面積は主食用、10a当たり収量は生産者ふるい目幅ベースの重量である（以下同じ。）。



10a当たり収量の分布状況

令和7年産水稻収穫量調査では、東北6県合計で1,610筆の作況標本筆を設置して調査を実施しました。東北6県の平均の10a当たり収量（生産者ふるい目幅ベース）は557kgで前年産より1kg増加しました。作況標本筆の10a当たり収量の分布状況をみると、東北6県の平均付近の筆数割合が高くなっていますが、300kg未満の筆から800kgを超える筆まで幅広い10a当たり収量の筆が含まれています。

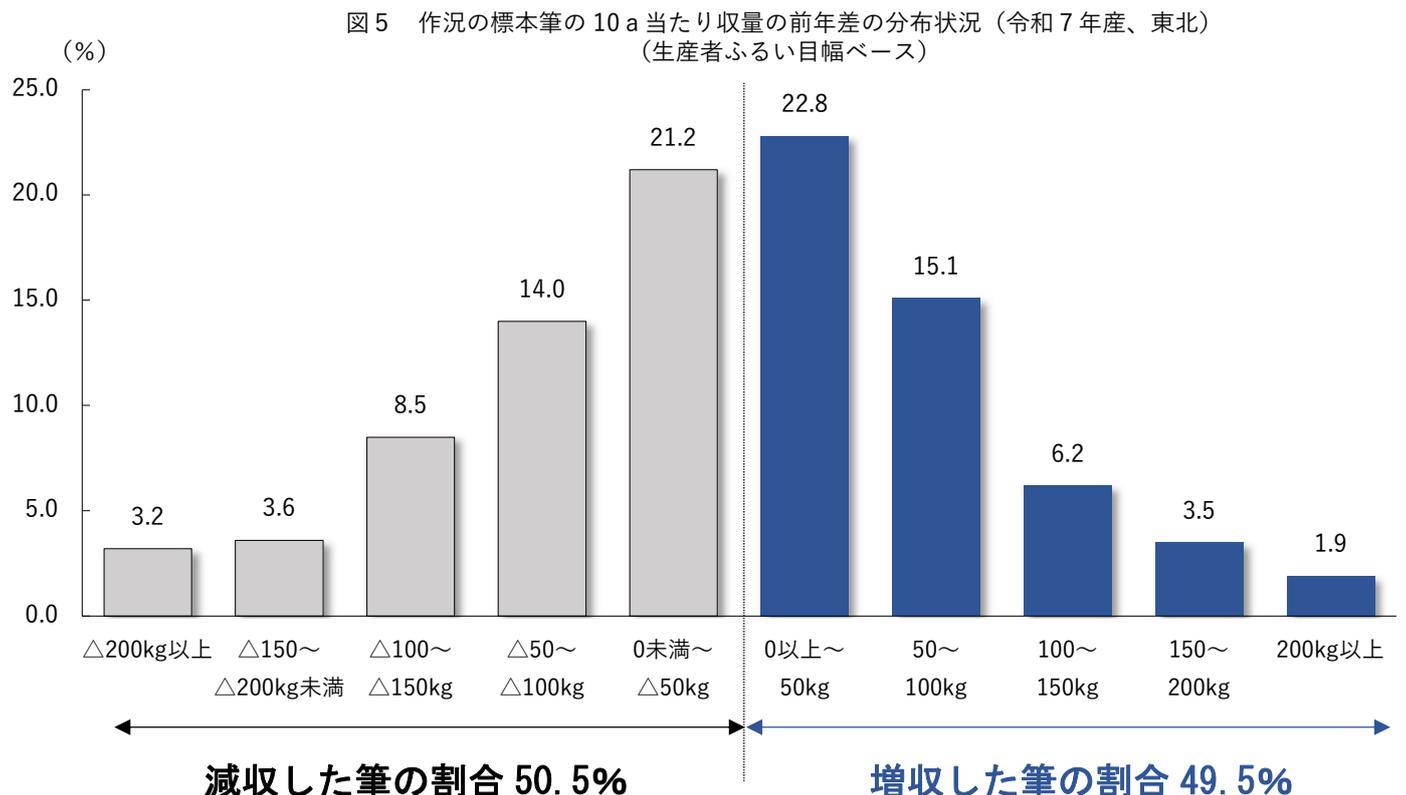
さらには、分布状況を前年産と比較すると、東北平均付近の筆数割合は低下し、500kg未満及び650kg以上の階層に分散しています（図4）。



10a当たり収量の前年差比較

東北6県合計の令和7年産水稻の作柄は、作況単収指数「101」となりました。

作況標本筆1,610筆のうち、前年から継続して調査を行った1,286筆について、それぞれの10a当たり収量（生産者ふるい目幅ベース）を当該筆の前年産と比較すると、前年産より増収した筆の割合は49.5%、減収した筆の割合は50.5%となっています（図5）。

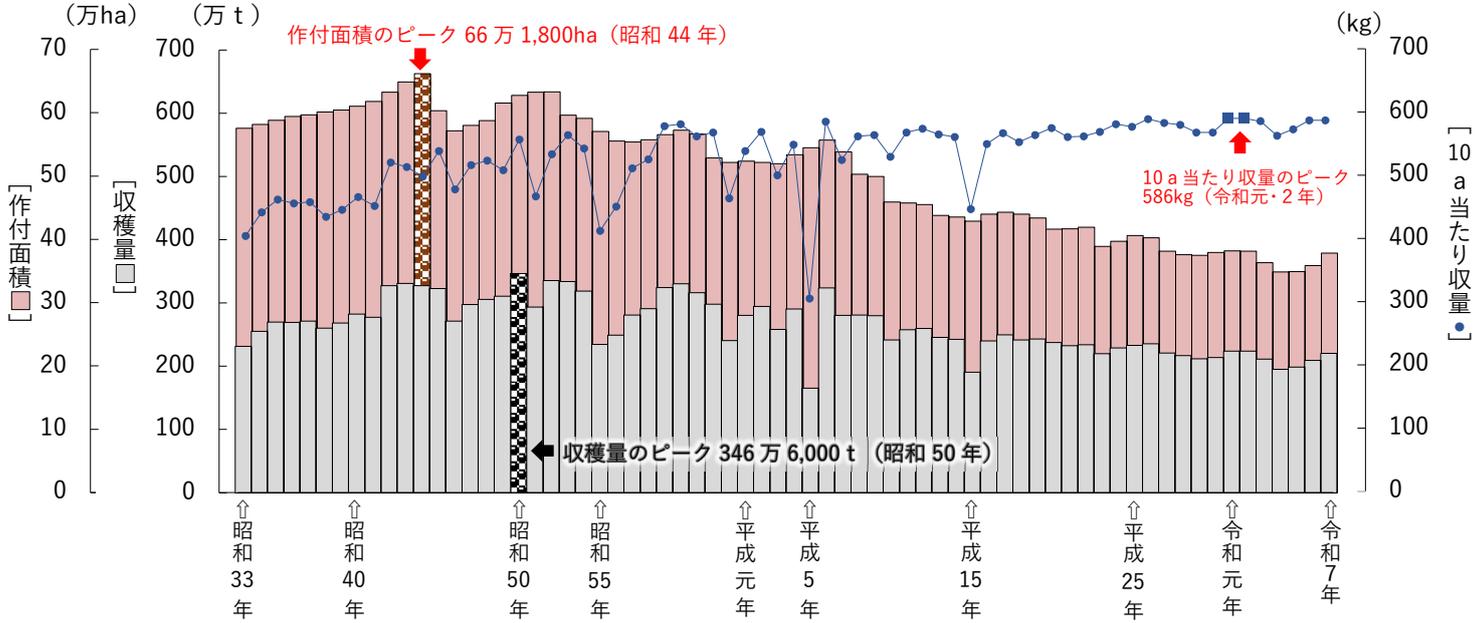


水稲の作付面積、10a当たり収量、収穫量の推移（東北6県）

東北6県合計の水稲作付面積（子実用）^注は37万8,100ha、収穫量は220万3,000tとなりました。作付面積・収穫量とも令和4年から増加していて、令和7年は、作付面積の対前年の増加幅が最も大きくなっています（図6）。注：青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積

それぞれのピークは、作付面積は昭和44年の66万1,800ha、収穫量は、昭和50年の346万6,000tとなっています（模様付き棒グラフ参照）。また、10a当たり収量は、平成15年以前は冷害の影響を受けて低くなる年もありましたが、近年は、増収傾向にあります。

図6 水稲（子実用）の作付面積、10a当たり収量、収穫量の推移（東北）



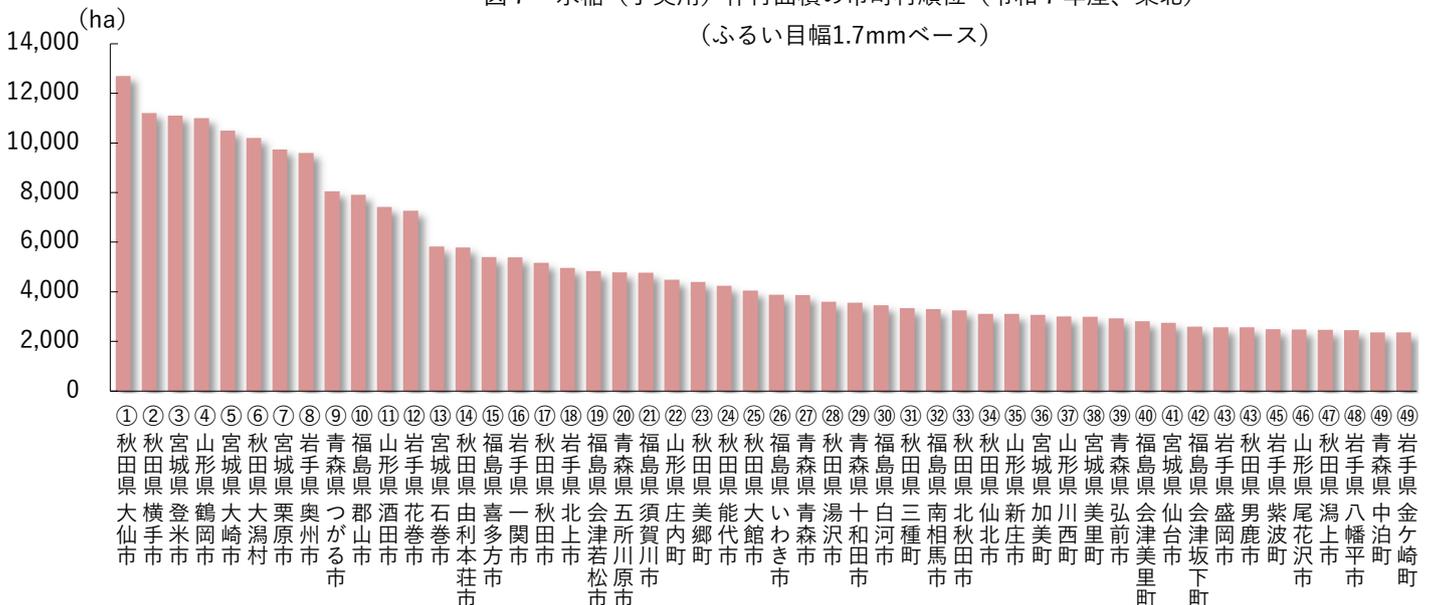
市町村別作付面積 — 第1位は秋田県大仙市の1万2,700ha —

東北6県の市町村別水稲作付面積（子実用）のランキングをみると、第1位は秋田県大仙市で1万2,700haとなり、上位6市村（大仙市、横手市、登米市、鶴岡市、大崎市、大潟村）は、いずれも作付面積が1万haを超えています。

また、各県で第1位となった市町村をみると、青森県がつがる市（東北第9位）、岩手県が奥州市（同8位）、宮城県が登米市（同3位）、山形県が鶴岡市（同4位）、福島県が郡山市（同10位）となっています。

さらに、上位50市町村にランクインしている市町村数を県別にみると、秋田県が14市町村、福島県が9市町、岩手県が8市町、宮城県が7市町、青森県及び山形県が6市町となっています（図7）。

図7 水稲（子実用）作付面積の市町村順位（令和7年産、東北）
（ふるい目幅1.7mmベース）



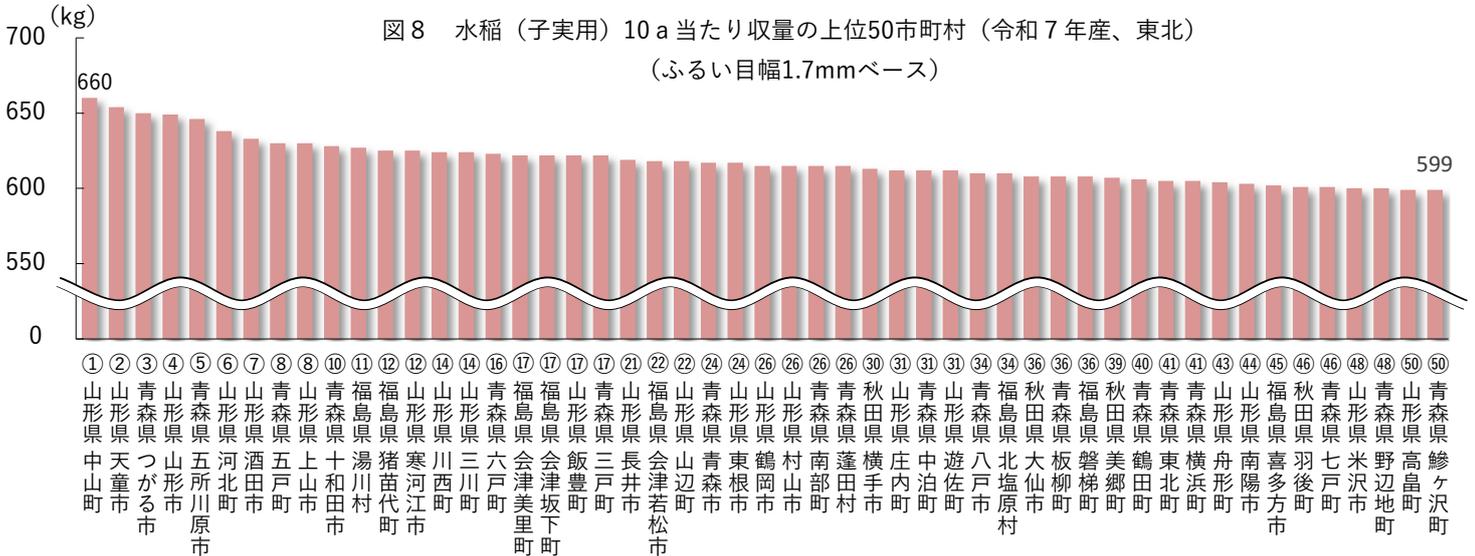


市町村別 10 a 当たり収量 — 第1位は山形県中山町の 660kg —

東北6県の市町村別10a当たり収量（ふるい目幅1.7mmベース）のランキングをみると、第1位は山形県中山町で660kgとなり、上位3市町（中山町、天童市、つがる市）はいずれも650kg以上となっています。

また、各県で第1位となった市町村は、青森県がつがる市（東北第3位）、岩手県が盛岡市及び八幡平市（同63位）、宮城県が石巻市及び登米市（同83位）、秋田県が横手市（同30位）、福島県が湯川村（同11位）となっています。

さらに、上位50市町村にランクインしている市町村数を県別にみると、山形県が21市町、青森県が18市町村、福島県が8市町村、秋田県が4市町となっています（図8）。

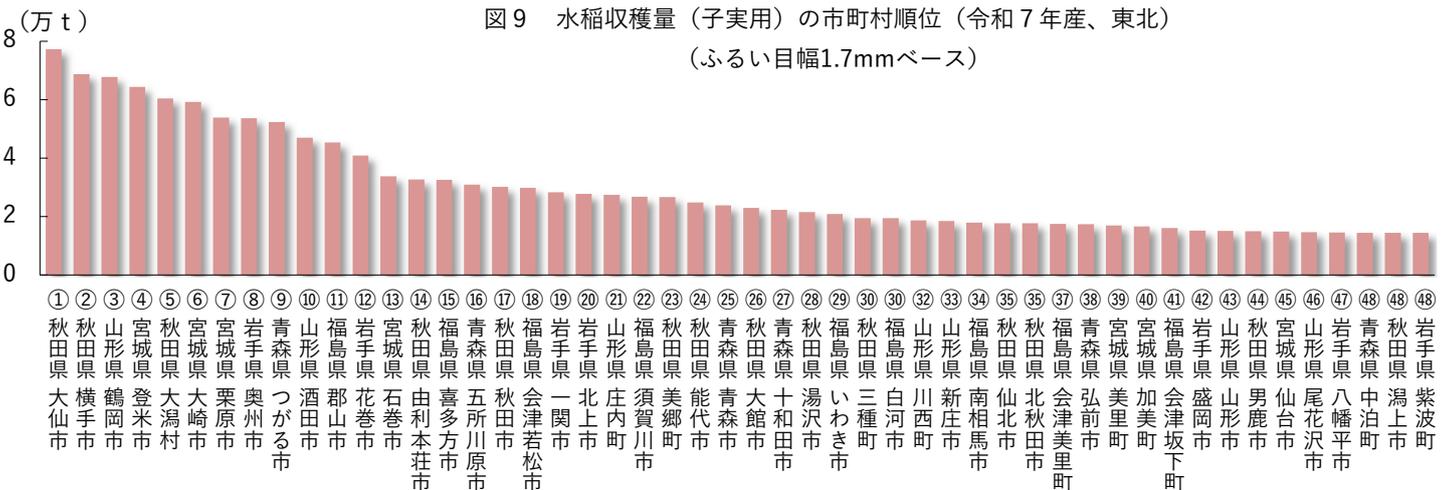


市町村別収穫量 — 第1位は前年に引き続き秋田県大仙市 —

東北6県の市町村別収穫量（子実用）^注のランキングをみると、第1位は前年に続いて秋田県大仙市で7万7,200tとなり、東北6県内の市町村の中で唯一7万tを超えています。注：1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量

また、各県で第1位となった市町村は、青森県がつがる市（東北第9位）、岩手県が奥州市（同8位）、宮城県が登米市（同4位）、山形県が鶴岡市（同3位）、福島県が郡山市（同11位）となっています。

さらに、上位50市町村にランクインしている市町村数を県別にみると、秋田県が14市町村、福島県が9市町、岩手県、宮城県及び山形県が7市町、青森県が6市町となっています（図9）。



水稻の収穫量調査結果が、生産者ふるい目幅ベースに見直したことから、その単位で分析しました。なお、P3の市町村別作付面積以降については、ふるい目幅1.7mmベースで作成しております。



-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部統計企画課 電話：022-745-9378

水稻の作付面積、収穫量、市町村別データ、用語解説など「作物統計作況調査（水陸稲）」の詳しい情報（公表資料）はこちらからご覧いただけます。



東北農政局ホームページ https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/sakumotu/sakkyou_kome/index3.html